

2011年 ISAF 年次会議 レポート

「いよいよロンドン五輪、セーリング競技をオリンピックの競技として残せるか！」

於：サンフワン プエルトリコ

11/3-14, 2011

報告 大谷 たかを (ISAF イベント委員、カOUNシルメンバー)

「日本女子470金メダル！」の嬉しいNEWSをもたらした8月のテストイベント(プレ五輪)は大成功に終わったが、セーリング競技をいかにその奥深さを失わずにメディアに見せて行くことができるかをさらなる検討がISAFに求められている。

ISAFからの強い要請を受けて、ロンドン大会ではセーリングでは初めて着席式の観客席(自然の丘と古い要塞を利用)を設けてその目の前でレースが見られる、というコースが設定され、8月のテストイベントでは全てのメダルレースとマッチレースがその海面で行われ、大きな成功をおさめた。ウェイマス独特の南西風が入れば非常にエキサイティングなセーリングを観客席から手に取るように見られる距離にコースを設定することができる。最終日のトップ10だけによるメダルレース以外のレースもスター級を除いてその海面でのレースが予定に組まれる。観客席のチケットは他競技に先駆けてすでに完売、追加チケットの販売も予定されている。観客席前を通過してスタート位置についたり、フィニッシュ後はメダリストが観客席の目の前を帆走する…といった演出も考えられえている。



世界遺産でもある化石の宝庫「ジュラシックコースト」をバックに接近戦を展開

その他の主なトピックは

1. 2016年リオデジャネイロ五輪に向けての国枠選考。

オリンピックの2年前に当たる2014年にスペイン(サンタンデル)で開催されるISAFワールド(五輪全種目同時に行われる世界選手権)で国枠の50%、残りを2015年(五輪前年)に、ワールドカップ等を使っての大陸別(ヨーロッパ、アフリカ、

北アメリカ、南アメリカ、オセアニア、アジア)の予選が検討されている。オリンピックの予選になるべく多くの国が参加できるようにというのがIOCからの要求であり、ISAFとして参加国を増やすべく一人乗り(艇/ボード)にむけて様々なサポート計画が進められる。

2. オリンピックレースフォーマット

2013年にはロンドン大会でのメディア/視聴者等の関心率をもとに2020年オリンピックでの競技内容の見直しが行われる。ロンドン大会での関心率によっては、東京が2020年大会の招致を成功したとしても「セーリング競技無し」という可能性もあるということだ。なんとでも復活を目指す日本の得意種目の野球やソフトボールをはじめ多くの競技が五輪競技入りをねらって、メディア/視聴者へのアピール度/わかりやすさを追求して競技のビジュアル度アップ、ルールの見直し等の対策を進めて来ている。セーリングという自然の力を使った「独特かつ微妙な面白さ」をいかに見せて行くことができるかが課題だ。ISAFとしてはGPSを使ったトラッキングのイメージをどこまでISAFのWEB上で流すことが出来るかということも含めて最後の詰めが大切だ。

3. 2016年大会での艇種決定

5月のミッドイヤーミーティングで決定された女子二人乗リスキッフ、マルチハル、ボード/カイトの艇種決定が来年の11月ではロンドン直後からキャンペーンを始める必要がある選手/国にとって遅すぎるという多方面からの声を受けて、すでに普及し始めている29erXX(29erのダブルトラピーズ版 写真)



を今回の総会で決定してはどうかとの提案もあったが、来年11月ではなく、2012年5月での決定に向けての作業を急ぐこととなった。4月予定されているセーリングトライアルに各国からのセーラー(ターゲットウエイト110-130kg)の派遣が要請されている。

4. アメリカスカップ関係

アメリカスカップのルールとレースフォーマットも大きく変わろうとしている。いよいよメディアを強力に意識したマルチハルを使ったレースが始まり、なんと誤差20

mという超高性能GPSを使ったトラッキングでリコールの判断や部分的なルール違反の判断および実写画面にトラッキングイメージを重ね合わせるという高度な手法での視聴者へのアピールを狙っている。非常に狭い海面、ダウンウインドスタート等により、クラッシュや劇的な「沈」は日常茶飯事、今までのセーリングのイメージを大きく変えてきている。参加型スポーツであるセーリングをいかに見せるスポーツとしていかに大きな力がそそがれている。

今までのアメリカスカップレースに比べればはるかにエキサイティングではあるが、「そこまでやるか？」といった声も聞かれた。

5. アジアの動き。

五輪大陸予選に使われる可能性が高くなったISAFワールドカップをチンタオ(中国)が招致、2012あるいは2013年10-11月開催に向けて進んでいる。日本にもぜひ持ってきたい大会だが中国の強い経済力に対抗していくのはなかなか難しいようだ。お隣の韓国も2013年女子マッチレースワールドを10万ドル(約800万円)の賞金をつけて招致成功、マレーシアは2014年のISAFユースワールドを、中国は2013年レーザーラジアルワールド及び2014年のユースオリンピック..とビッグな動きが進んでいる。

5. ルール関係

2013年のルール改正に向けての最終案が検討された。

(詳細は柴沼ルール委員会委員のレポート参照)

6. オフショア関係

ORCとRORCによる統一レーティングに向けての詰めが進んでいる。

(詳細は小林オフショア委員会委員のレポート参照)

6. ブラインドセーリング

2013年の日本開催(三浦シーボニア)がIFDS(国際障害者セーリング連盟)総会で承認され、ISAFへ強い協力が要請された。

来年はISAFの会長/副会長の選挙。今回ISAF年次総会をホストしたプエルトリコのエリック・トゥーラ氏(現副会長)とオーストラリアのデイビット・ケレット氏(現財務部長)が名乗りを上げている。このたびの総会には植松ISAF副会長も参加、オフショア関係および各国協会間のつながりを深めることができた。

以上